

受け持ち事例Dさん

Aさん
80歳代
要介護4



脳梗塞
右片麻痺
運動性失語

左手左足を使い車いすを自走する
食事を終わるとすぐに部屋に戻る

利き手が使えないが、自身で食事をしたり歯磨き
をしたり、**自分でできることは自分で行う**

普段の様子

- ・穏やか
- ・前の席の人にお辞儀をして挨拶をする
- ・話しかけるとよく笑う
- ・他の利用者と話す様子は見られない

アセスメント

#1

「**食事は楽しみ**」

利き手ではない左手のみで食事のため、食器を抑えることができない→すくう際に食器が動いてしまい食べづらそう

#2

運動性失語があるが、ゆっくり話すことで会話は可能。聞き取れないと耳を寄せたり何回も伝えようとしたりする。

「**話すことは楽しい**」

#3

部屋で過ごす時間が多い。

「**部屋では何もしていない**」

桜がきれいに見える場所についてよく話している

「**桜が見れたら嬉しい**」「**でも施設にいるから**」

介護ニーズ

#1

滑り止めを活用し、食べづらさを減らしたい。

#2

発声発語の練習をして、自身の伝えたいことを最後まで音にして伝えたい。

#3

何もしない時間を、本人が好きな桜を感じられる工作をすることを通して、楽しく過ごしたい。

目標

#1

食べづらさを感じずに、食事を楽しむことができる。

#2

自分の思いを声で伝えることができる。

#3

楽しみを持って生活することができる。

介護計画の実践過程

1滑り止めを活用し、食べづらさを減らしたい。

介護計画

- ①Aさんに滑り止めを使うことの承諾を得る。食器が滑らなくなるという説明をする。(実習生)
- ②食事の様子を観察する。(実習生)
- ③Aさんに食べやすかったか、食べづらかったかを尋ねる。(実習生)

利用者の様子・変化



<1回目>

昼食時に滑り止めを使用

- ・食器が滑らないことで、食器を動かして自分の近い位置に動かすことができない
- ・普段は三角食べだが、今回は手前のものから食事をする
- ・「滑り止めはない方がいい」



Aさんが好きな順番で食事をするためには滑り止めは必要なかった



<2回目、3回目>

食器の数が多い昼食では滑り止めを使わずに、

おやつの際に滑り止めを使用する

- ・プリン食べづらい、ヨーグルトは食べやすい
→プリンはゼリー状のため、口に運ぶまでにスプーンの上で滑って食べこぼしてしまう
- ・「少し食べやすかった」



2発声発語の練習をして、自身の伝えたいことを最後まで音にして伝えたい。

介護計画

- ①機能訓練士から発声のリハビリの内容や実施する時間帯について指導を受ける。(実習生)
- ②「一緒に声を出す練習をしませんか」と声をかけ、承諾を得る。(実習生)
- ③静かで雑音のない場所へ移動する。(本人)
- ④練習の紙を見てもらう(本人)
- ⑤首のストレッチをし、舌を動かす(一緒に)
- ⑥単語、文章を声に出す。(一緒に)
- ⑦一つ一つフィードバックをする。(実習生)
- ⑧「今日は終わりです。ありがとうございました」と笑顔で伝える。(実習生)
- ⑨「お水を飲みましょう」と声をかける。(実習生)

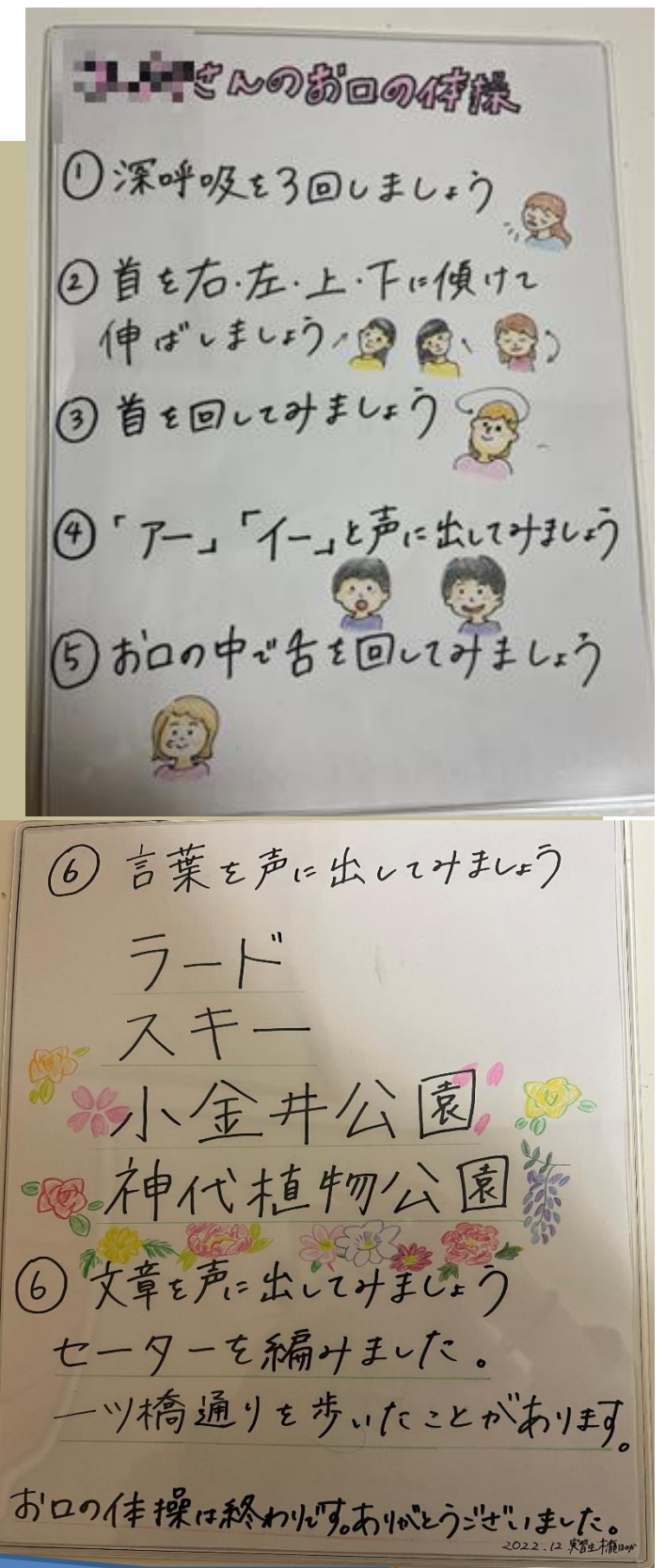
利用者の様子・変化

<1回目> 昼食前

- ・紙を見て、自分から①の深呼吸をしていた。
- ・「ラード」という言葉が「ラーロ」という発音になっていた
- ・繰り返し発音することで、Aさんも「ド」という部分を意識して言葉に出していた。

<2回目> 昼食前

- ・先日の口腔体操の内容を覚えており、また自身から進んで取り組んでいた。
- ・今回は「ラード」という言葉を一回で発音できていた。
- ・紙に書かれた花の絵を見て名前を当てたり、その言葉の思い出について話していた。



ラード 飼っていた犬の名前
スキー 楽しんだスポーツ 等 幸せ時間を頭に描くことばで 発声練習

3何もしない時間を、本人が好きな桜を感じられる工作をすることを通して、楽しく過ごしたい。

介護計画

- ①「一緒に部屋の飾りを作ませんか」と尋ね、承諾を得られたら工作を始める。(実習生)
- ②土台の紙と花びらを用意する。(実習生)
- ③利用者に好きな色の花びらを選んでもらう。(本人)
- ④両面テープを剥がす。(実習生)
- ⑤利用者の好きなところに花びらを貼る。(本人)
- ⑥貼り付けることが難しそうであれば、声かけをして手伝う(実習生)
- ⑦完成して、本人の同意を得られたら、利用者に飾る場所を尋ねながら部屋に飾る。(一緒に)

利用者の様子・変化

- ・「大きい花びらがいい」とこだわって選んでいた
- ・「木下の方は濃い花びら、上の方は薄い花びら」と真剣に花びらを貼る場所を考えていた。
- ・薄い素材の花びらは貼るのに少し苦労している様子だった
- ・「どこの桜を想像しているのですか?」「○○通りの桜」
- ・「本物とは違うけれど、桜を思い出すことができる」
- ・「ありがとう」と笑顔で話していた
- ・部屋に飾る場所を他の飾りとのバランスを見て「右」「もう少し」と伝えていた。



介護計画の作成を通して学んだこと

- ・利用者の願いを引き出すことの難しさを実感し、生活場面での希望を傾聴したり、思いを言葉に表現することが難しくても観察したりすることを通して利用者にとって心地よい生活へとつなげていくということ。
- ・介護計画を作成して実施したことで、情報収集の段階では見つけることができなかった利用者のこだわりや特徴を発見できること。

実習全体を通して学んだこと

- ・介助において、声かけがすべてではなく、利用者の認知機能に応じて利用者の目線や腕を誘導することの方が利用者にとって分かりやすく効果的な場合があるということ
- ・利用者の能力を活かした介助を実践するためには、利用者の能力の把握をするとともに介助の流れについても考えることでスムーズで安全な介助へとつながるということ